

第24回 応用倫理・応用哲学研究会

# 女性労働者の解放を志向して、 女性労働運動の理論を紡ぐ

――主に山川菊栄における女性労働解放の思想・理論への考察

戦間期日本において、女性労働運動の誕生・発展を期して活動したフェミニストの第一人者は、山川菊栄であろう。当時、女性労働者は家父長制と結合した資本制の下で、家計補助労働者とみなされ、低賃金構造と長時間労働・深夜業など劣悪な労働条件を強いられた。男性中心の労働運動は、女性労働者の組織化と労働条件向上を度外視した。今日においても性分業と女性労働者の低賃金構造は温存されている上、新自由主義のもとで非正規雇用率も高まっている。

この状況を変える手がかりを得るために、女性労働者の組織化や教育を主張し、労働運動における女性排除と性的偏見の除去に取り組んだ山川菊栄の歩みをふり返りたい。

講演者

## 鈴木裕子

プロフィール

1949年東京生まれ、早稲田大学。労働運動史・組合史編纂・執筆に携わる一方、女性史・社会運動史研究に従事。早稲田大学文学学術院元教員。早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員。主要編著書に、『広島県女性運動史』、『フェミニズムと戦争協力 婦人運動家の戦争協力』、『山川菊栄集』、『堺利彦女性論集』、『フェミニズム、天皇制、歴史認識』、『ジェンダーの視点からみる日韓近代史』、『金子文子 わたしはわたし自身を生きる』、『忘れられた思想家・山川菊栄 フェミニズムと戦時下の抵抗』ほか。

日時/

2022年

7月16日(土)

14:30~17:00

会場/

北海道大学

人文・社会科学総合教育研究棟

W409室

※参加申込は不要です

主催/ 北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター

共催/ 科学研究費助成事業・基盤研究(C) 22K12636 「女性労働をめぐる運動と表現―戦間期日本のダイナミズムと連帯への模索に着目して」 代表者・水溜真由美・北海道大学教授

問い合わせ先/

北海道大学大学院文学研究院  
応用倫理・応用哲学研究教育センター 事務局  
〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目  
Tel: 011-706-4088 Email: caep@let.hokudai.ac.jp

HP: <http://caep-hu.sakura.ne.jp>

Twitter: @caep\_hu